

「心のよりどころ」としての菩提寺

檀家総代 神尾 正俊

私が昌傳庵の総代をつとめさせて頂いて、早や十五年になります。その間、前ご住職及び前ご夫人のご葬儀、現ご住職の晋山結制、大日如来像の保存修理作業の見学、大般若経の手書き修復の手伝い、大般若会の復活、等々、様々な経験と勉強をさせて頂きました。

これらを通して、室町時代以来五百余年に渡る昌傳庵の歴史と歴代ご住職の思いを少しは感じることができたと思っております。

平成三年に刊行され平成二十一年に増刷された冊子『曹洞宗 奕葉山 昌傳庵』を拝見しても、昌傳庵が檀家や地域住民の皆様の「心のよりどころ」だったことが伺えます。大正八年の米沢大火で、昌傳庵も類焼した際、檀家やご近所の皆様が大日如来様を御堂の南側にあった池に沈めて消失から守ったという話を聞いても、お寺はなくてはならない「心のよりどころ」だったことがわかります。

去る十一月二十三日に、副住職様の婚礼の儀が行われ誠におめでとございました。更には今般檀家総会において、庫裏建設に関わる浄財寄進が承認されました。私たち檀家は「心のよりどころ」である菩提寺とご住職を護持する為、力を合わせたいかなければと改めて考えているところです。

最後に、令和六年が檀家の皆様にとりまして、更に良き年となりますようお祈り致します。

懐かしの写真 No. 7

今回は、平成18年～20年頃の様子を掲載致します。隣接する北側の宅地と南側の原野(以前は田)を購入し寺の境内地としました。境内地がいつきに広がりました。



⇒



⇒



大日堂北側の細長い土地は、寺で買えなかった為、平成17年に当時の副住職(現住職)が借金して個人で購入し、後に護持会費からも援助を頂き昌傳庵境内地として登記しました。(平成18年整地)



平成19年5月、車1台分しか通れなかった橋を、広く架け直しました。(寺のお金ではなく、これも個人でした。)



平成20年、戦前は寺の所有だった隣接する田約600坪を寺で購入し、とりあえず車庫の西側を埋めて整地しました。